



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



左上：コチドリ 右上：オオタカ 左下：オオヨシキリ 右下：インシギ／写真：柳町邦光

福井の自然史情報

足羽川の野鳥

大きな被害をもたらした福井豪雨から4年がたちました。

この豪雨は、動植物にも大きな影響を与えたようです。

足羽川にすんでいる鳥たちは、いったいどのように変化したのでしょうか。



裏面に解説があります。

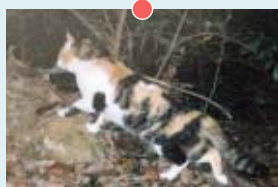
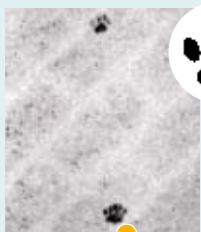
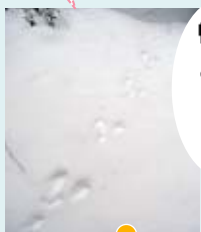


冬の楽しみ ～動物の足あと探し～

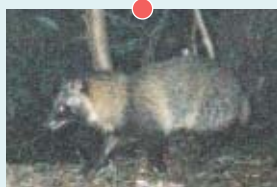
進行方向は後ろ足
(大きい足あと)の
ある方だよ!

誰の足あと?

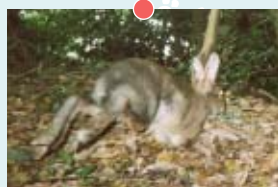
よく似ている
タヌキとネコの足あと
ツメのあとに注目!



ネコ



タヌキ



ウサギ

普段その姿をあまり見かけない哺乳類ですが、足あと、フン、食痕などのフィールドサインによる情報で、生息を確認することができます。その中でも「足あと」は、ほとんどすべての哺乳類が残すため、最も基本的なフィールドサインの一つといえます。

足あとを見つけたら、まずその形と大きさをみて見当をつけます。ただし、野外で実際にみつける足あとが典型的なものであることはまれで、形がはっきりしない場合がほとんどです。そのため、歩幅(前足と後足の間隔)や足あとのパターン、その地域の生息状況など、いろいろな情報を総合的に判断して足あとをつけた動物を推測します。

雪が積もったあとの早朝、足羽山でも意外とたくさんの動物の足あとを見つかることができます。みなさんも探してみませんか?(内藤)

特集

博物館につどう人たち ⑧ ～博物館実習生～

みなさん「博物館実習」ってご存知ですか?教員免許を取得したい学生が各学校へ行く「教育実習」と同じく、学芸員資格を取得するには、通常、博物館で実習を行うことになっています。当館にも毎年県内外から申し込みがあり、約10日間、学芸員とともに博物館の仕事を体験しています。

実習の内容は、①収蔵庫で標本の収集・保管について学ぶ、②標本の作製・整理を通して標本の扱い方や大切さを学ぶ、③博物館で開催される講座を通して普及活動を体験する、となっています。

実際には、学芸員の指導で昆虫標本の作製や化石のクリーニングを行ったり、「標本同定会」における受付や、「石で火をおこそう」などの体験行事などで来館者との対応を体験してもらっています。具体的な内容や実習生の感想については、毎年実習生が作製するHPに掲載してい

ますので、ぜひご覧ください。

<http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp/intern/index.html>

さらに今年度は、展示の立案と実施という初の試みも盛り込み、秋のミニ展示「足羽山のどんぐり展」(2008年11月1日～30日開催)に関わってもらいました。夏の実習期間中から打ち合わせを重ね、「子どもが楽しめる展示にするにはどうしたら良いか」「関連行事は、いつ、どんな内容で実施するのが効果的か」など、試行錯誤しながら実習生自身が準備を進めました。大学生ならではの自由な発想が生かされた展示・普及行事となり、お互いに良い経験になったと思います。学芸員資格を取得しても実際に博物館で働く機会のある方は少ないですが、博物館での実習経験を生かして、これからもがんばってほしいと思います。(中村・安曾)



昆虫標本の作り方を学ぶ



実習生が自分で作ったアカネズミの皮標本



実習生企画「どんぐり工作」の様子

左:手順を指導する実習生 右:できあがったドアプレート

ゴール

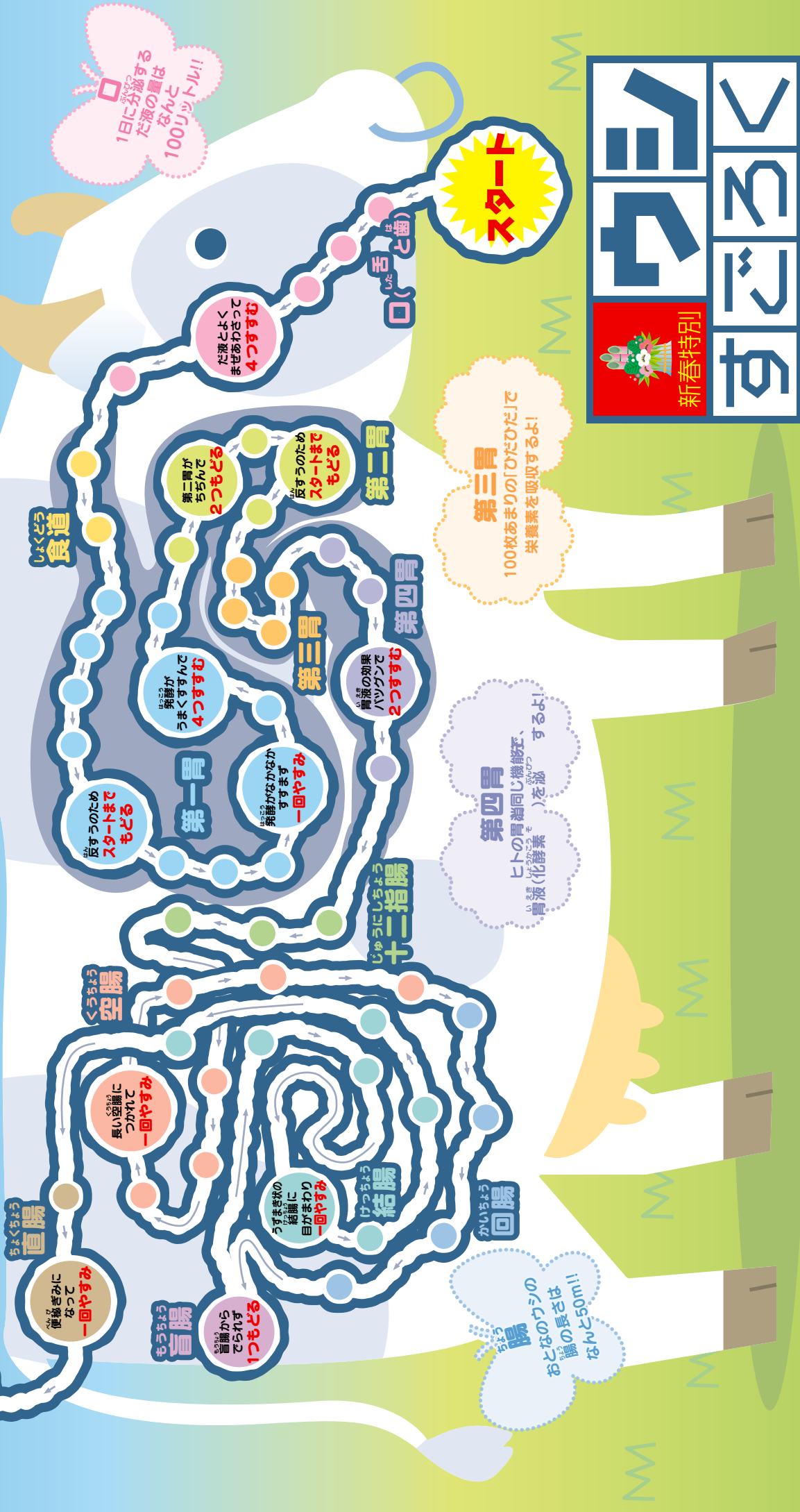
今年も**ウン**が
つきまくり!!

第二胃

内側に韓の美みしたいな模様があるよ
第一胃といっしょに動く発酵タンクだ!

第一胃

大きさは48リットル以上
微生物だらけの巨大発酵タンクだよ!



新春特別

すくすく

やみ

集中豪雨後の足羽川の野鳥たち

柳町 邦光 (日本野鳥の会福井県支部支部長)

2004年7月18日の未明に発生した集中豪雨では、福井市を流れる足羽川が氾濫して、流域の家屋や田畑で大変な被害を受けたことは今も忘れられません。被害を受けた街中はもちろん、河川の復旧工事も殆んど終わって、今では元の美しい足羽川に戻ったようにも見えます。しかし、この集中豪雨が足羽川の流れを大きく変えたのはもちろん、そこに生えていた草や木まで根こそぎ破壊してしまったのも事実です[写真]。だからこの河川に生きていた魚や昆虫など小さな生き物たちもここには生息できなくなってしまい、これらの生き物を餌にしている野鳥たちも大きな影響を受けてしまったのです。

野鳥は翼をもっているのどこへでも飛んで行けますが、しかし、食べる餌は種類によってだいたい決まっているので、好きな餌がある場所を探してそこへ飛んで行きます。そこで足羽川で見られる野鳥について、集中豪雨の前とその後の違いを知るために、稲津橋から毘沙門橋まで間で、2004年10月から2006年9月までの2年間にわたって調査を行いました。その結果、多くの木々がなくなったことから、林を好む野鳥がとても少なくなったこと、特に大きな木に止まって餌を探すオオタカなどのタカの仲間が減りまし

た[表紙]。また、水辺の砂地が荒れてしまったので、このような場所を好むシギ・チドリの仲間も減りました[表紙]。しかし、流された木の後に草が茂ってきたので、オオヨシキリなどこのような草地を好む種類は増えていました[表紙]。また、冬に見られるマガモやコガモなどは水面に多く浮いているように見えますが、隠れ場となる水辺の草木が無くなったので、すぐ飛び立ったり逃げてしまったりし

て居心地が悪くなったようにも思います。全体では76種類の野鳥が見つかりましたが、この同じ場所で10年前に調査したときには91種類でしたので、15種類も減ってしまったのです。

この足羽川の環境が、水辺の草木やそこに生息する生き物も含めて元に戻るま

ではこれから数年から十数年もかかると思いますが、このようなゆっくりした自然環境の変化を知るには、定期的な観察を行ってしっかりと記録しておくことが大切です。元に戻った自然豊かな足羽川に多くの野鳥たちがまた来てくれることを期待したいですね。



■福井市足羽川橋周辺の様子
(上: 1991年8月31日、下: 2004年7月28日)

この内容については、研究報告第54号に詳細が報告されています。
博物館HPからダウンロードすることができます。

<http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp/shuppan/kenpou/kenpou.html>

《あとがき》

私たちの生活に深くかわかる牛ですが、その骨などを減らすことは減多にありません。博物館に収蔵されている実物標本によって、その意外な大きさを知るなど、毎年の「干支展示」は、作る側の私たちにも、動物について勉強する良いきっかけとなっています。でも、来年は「トラ」…トラの展示は大変そうだ、と今から思い悩んでしまいます。さて、寒い冬ですが、博物館では「どんぐりコマのプレゼント」や「ウシすごろく」で楽しめます！動物の足あとを探しがてら、ぜひ博物館へ遊びにいらしてくださいね。(安曾)

《交通案内》

【電車】

福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

【バス】

コミュニティバスすまいる:西ルート(足羽・照手方面)

愛宕坂バス停 徒歩10分

京福バス運動公園線(70号系統) 久保町バス停 徒歩15分

【徒歩】

JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ●午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)

休館日 ●月曜日(祝日は開館)、国民の祝日の翌日、年末年始

入館料 ●高校生以上100円(20名以上の団体は半額)
中学生以下、70歳以上、
障害者および付添の方は無料

